

7月末組織人数
5,212人

岩手県連ホームページに
アクセス出来ます。



建 労 い わ て

増 刊 号

発行所
岩手県建設労働組合連合会
教 宣 部
盛岡市本宮一丁目7番27号
電 話 019-631-3280
F A X 019-635-4015
発行者編集長 藤 井 泰 男

全建総連 第45回花巻教宣大学

収穫の多い3日間



講師の指導のもと仲間と共に新聞を仕上げます



全体発表で感想を述べる藤井さん（写真右）と佐藤さん（写真左）

7月17日～19日にかけて花巻市「ホテル千秋閣」において、全建総連第45回花巻教宣大学が開校されました。全国の仲間（21県連・組合）が71人、講師と事務局合わせて95人が参集。岩手県連からは4組合から8人が参加しました。

1日目は全建総連の志賀政和副委員長が開校あいさつ。続いて岩手県連の高橋清一郎会長から「西日本豪雨災害の中、遠方より沢山の皆様に参加頂きありがとうございます。今日からの3日間収穫の多い学習会（教宣大学）になる様にがんばって下さい」と地元組合あいさつがありました。そして全建総連の奈良統一書記次長から中央情報報告、参加者とグループ（各教室）の講師紹介と続いた。

2日目は参加者が宮澤賢治記念館、(株)日本ホームスパン、佐々長醸造(株)、台焼、廣田酒造店、バラ園の6ヶ所の中

後、花巻市博物館の高橋信雄館長から「花巻の文化と歴史について」記念講演が行われました。記念講演の後には各教室に分かれて、講師から記事の書き方、写真の撮り方や取材の仕方、機関紙づくりに関してなど講義を受けて終了となりました。

3日目は参加者が宮澤賢治記念館、(株)日本ホームスパン、佐々長醸造(株)、台焼、廣田酒造店、バラ園の6ヶ所の中

から1つ選択し取材を行いました。取材の後には各教室に戻り、それぞれのグループまたは個人で取材内容を記事にまとめ、最終的に書き新聞にまとめる作業を行いました。岩手からの参加者は慣れていない記事作成や、見出し・レイアウトを考える事に苦労していましたが、同じ教室の仲間と協力しながら作業をしていました。

新聞が完成すると印刷作業となり、作業中の参加者は仲間と作り上げた一体感とやっと終了するという達成感の両方の気持ちからみなさん笑顔でした。13教室全ての印刷作業を終えたのが午前12時前で「去年は午前2時過ぎに終了したグループがあつたけれど、今年はまだみなさん早いので早く終わりました。とてもめずらしい事です」と講師と事務局は話していました。

3日目は各教室から完成した新聞について担当講師と参加者から



修了証の代表授与を行う鈴木博三さん

紙面の説明と、3日間の感想などを発表。その後、参加者を代表して全建愛知の方と岩手県連の鈴木博三さんにそれぞれ修了証が授与されました。修了証授与の後、全建総連の山下正人教宣部長から「今回教宣大学で学んだ事を各県連・組合での活動に活かしてほしい。また教宣活動をますます盛り上げて頂きたい」と総評。高橋清一郎中央執行委員（岩手県連会長）の開校あいさつをもって終了となりました。

2泊3日で行われた教宣大学に参加された全国の仲間からは「今回の教宣大学に参加して良かった。岩手はとても過ごしやすく、ご飯も美味しかったです。今度はプライベートで来たいです」と感想をもらいました。

【県連 鈴木(亭記)】

きずな

▼サッカーW杯、日本チームはなんとか決勝トーナメントに進出したが、おしくもベルギーに敗れベスト16位と健闘した。選手の活躍に加えて日本人サポーターの清掃行動が称賛され、各国に広がりを見せている光景は嬉しい限りである。

▼一方、国内ではアメフト、レスリングで監督やコーチのパワハラ問題が報道されている。真相は解明されていないが、第一線で頑張っている選手にとっては迷惑千万である。

指導陣がこのレベルでは世界はほど遠い、しっかりと欲しいものである。

▼夏と言えば私の大好きな高校野球の季節である。今年の岩手大会は70校66チームが1枚の甲子園切符を懸けて熱戦が繰り広げられた。単独ではチーム編成が出来ずに連合出場チームから、選手層が厚い常連校までチームカラーも様々。

▼年間の勝率で争うプロ野球とは違い、一度負けると先は全く選手は必死。また、総合力が高いチームが必ず勝つとも限らない。試合の流れを引き寄せられたチームは勝ち、あとストライク1つで勝利なのにヒットでさよなら負け、まさに高校野球はドラマである。今年も球児達の完全燃焼を願う。

【県連会長 高橋清一郎】